

町医者だより

平成30年10月号

ハゲタカ・ジャーナル

今から4年前Journal of Pulmonary and Respiratory medicineというオンラインジャーナルに論文を投稿し掲載されました。これはのちに大学勤務時代の後輩の学位論文になるのですが・・・。実はこの雑誌がハゲタカ・ジャーナルだったのです。今日はこの掲載にまつわる話です。

ハゲタカ・ジャーナルとは

最近この話題が新聞等にも掲載されお読みになった方もあるかもしれません。検索して出てきた東邦大学メディアセンターの記述によると、「しかるべき水準の品質管理を行わないまま論文掲載料収入のみを狙った学術雑誌を発刊する悪質な出版活動が問題になっています。」としています。このような雑誌はハゲタカ・ジャーナル、英語でpredatory journalといわれています。査読といって論文の整合性などをチェックするレビューワーカーからの質問などが適切に行われずそのような雑誌に投稿する研究者が問題だと批判する記事も目にしました。では、実際どうだったのか。まず投稿する雑誌を選んでいきます。もちろんインパクトファクター（他の論文に引用される数が多いかどうかを判定する客観的な指標で、数が多いほどが権威のある雑誌といえます）の高い雑誌に掲載されたいという野望はありますが、最低の条件として米国公立図書館の医学検索システムのPub Medで検索できる雑誌に掲載したいとほとんどの研究者は思っています。今回投稿した雑誌はインターネットで呼吸器系の雑誌をピックアップしていきPubMedでも検索可能なことを確認しました。実はその後わかったことなのですがPubMedで検索できる論文はその雑誌のすべての論文ではなく米国の医学研究拠点であるNIH（米国国立衛生研究所）から研究費（グラント）を貰っている論文だけをPub Medに登録する雑誌だったのです。そのため投稿した論文はPubMedで検索できません。そんなことは投稿稿程にはもちろん書いていませんでした。投稿後、それほどしつこくないレビューアーカーからの質問があり一応査読はありました。しかしながら採用となったときに請求された論文掲載料を見てびっくりです。論文の投稿規定には約1000ドルと書いてあったのに3500ドルというのです。間違えではないかとのメールでのやり取りの後、ニューヨークに留学していた時のボスにこんなことになっているとメールで相談しました（困った時しか連絡しません！）。返事がすぐに来て、怪しい雑誌が増えてきているから掲載を取りやめるとメールしてそのあとは無視しろとのことでした。筆頭著者に相談したところ、やっぱり論文を掲載したいとのことでした。結局論文掲載料のかなりの部分を順天堂大学呼吸器内科の医局が支払っていただきました。そしてのちにこの後輩は学位を頂くことができました。4年たった今でも教授や医局に申し訳なく思っています。ハゲタカジャーナルのリストがインターネット上に発表されています。また先の東邦大学メディアセンターの記述にもありますが、Committee on Publication Ethics (出版倫理委員会)のリストに掲載されている出版社・雑誌であるかということも投稿誌選定のポイントとなりそうです。研究者が論文を出版したいのは背に腹は変えられない事情があって必死です。いい加減な雑誌に論文を載せたいと思っている者は皆無です。こういうトラブルに巻き込まれたときに時に英語が母国語ではない悲哀を感じます。海外の出版社とのこういったトラブルに巻き込まれた時に一緒に対応して下さる部門が大学の枠を超えて例えば文部科学省などにできると研究者は助かります。私自身、今も論文を書こうとしていますが今日も怪しい雑誌から投稿しないかというメールが送られてきています。

<発行・お問合せ先>

おおわだ内科呼吸器内科

院長 大和田 明彦

市川市南八幡4-7-13

シャポール本八幡2階

JR本八幡駅南口(シャポール改札口)

2分ミスタードーナツ並び

ヘアサロンAsh向かいビル2階

電話 047-379-6661

おおわだ
内科
呼吸器内科